

令和6年度 園内自己評価書

令和 7 年3月14日

真庭市立木山こども園

園長 坂本 晃子 印

1. 木山こども園の教育保育目標

☆心身共に安定した生活を送り、人と楽しく関わりながら意欲的に遊びや活動に取り組める
子どもの育成

【目指す子ども像】

- 明るく元気な子ども
- みんなと仲良くする子ども
- 思いやりのある子ども
- 根気よく頑張る子ども

◇令和6年度 保育研究テーマ

※異年齢の温かい関わりの中で育ち合う子どもの育成

～ 人と関わる楽しさを味わい、つながる保育をめざして ～

*自分の思いを言葉で表現し、相手に伝えたり相手の話す言葉を聞こうとしたりする意欲や態度を育て、生活や遊びの中で「気持ちのつながり」と「言葉のつながり」を大切にしながら安心して自己発揮し、伝え合える子どもを育てていく。

2. 本年度の重点目標

1. 豊かな人間性へとつながる基礎を育む

1) 関わり合う力の育成

- ・人や自然との関わりの中で、様々な体験を積み重ね豊かな心情と道徳性の芽生え・人権意識を培う。
- ・様々な環境に自ら関わり、意欲的に遊びや活動に取り組み、友達の良さを認め合いながら、自分の思いを様々な方法で表現する子どもを育てる。

2) 温かい人間関係を育む

- ・甘えや自己主張を受け止めてもらいながら、自分の気持ちを安心して表す。
- ・会話や絵本を楽しむ中で言葉を増やし、言葉による理解を深め聴く力と考える力を育てる。

3) 健康で元気に生活する子どもを育てる

- ・一人一人の子どもの発達段階や家庭環境などを考慮しながら、安心して心身共に健康に過ごせるように「心」と「食」の面からも支えていくようにする。
- ・保育者との安定した関わりの中で、基本的生活習慣が身につく自分のことは自分でする子どもを育てていく。保護者との連携も密にし、母親を支えながら共に成長を支えていく。

4) 小学校への学びの連続性を考える

- ・接続を意識した交流活動の充実を図り、職員間の連携を行う。
- ・遊び込める子どもが、学び込める子どもであるので、自ら考えてじっくりと遊び込める環境を整え、「自己決定・自己実現」できるよう遊びや生活を通して「非認知能力」も大切に育てていく。

2.信頼されるこども園づくり
1) 開かれたこども園づくり
・保護者が相談しやすい環境を整え、保護者の思いを受け止め、一人一人の発達段階に応じた保育、教育にあたる。
2) 安心安全なこども園づくりの推進
・危機管理意識を常にもち、安全指導の充実に努める。

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価
保育教育課程・指導計画	指導計画は、それぞれの年齢の発達段階を踏まえ、園行事や地域の特色、その時期に育てたい思いも生かしながら計画をしている。PDCAサイクルに基づき反省もしたが、皆で検討する時間がもてなかった。	3
行 事	今年度は、積極的に地域の方に声をかけ、園外保育やお正月あそび、とんど、きぼうの杜ひのき、人権福祉センターなどと、温かい交流会を行うことができた。また、保護者と連携をし子どもの育ちに生かす為に行事の見直しも行った。バス遠足や参観日のあり方も検討したい	3
組織・運営	真庭市の公開保育を行い、職員が同じ思いで子ども達に関われるようまた、昨年の課題を生かし、園全体がより良くなるよう努力した。組織として運営もスムーズに遂行できるよう段取り良く行っていきたい。	3
学級経営	各年齢、乳幼児の発達段階や実態に即してクラス運営することができている。子ども達の成長に繋がった。	3
特別支援教育	保護者との面談・連携を密に行い、保護者の思いに寄り添いながら、関係機関とも積極的に連携をし、繋がりを持つように努力した。その甲斐があり、専門機関と繋がり個々の育ちや発達、悩める保護者や母親を支えることができている。	4
安全管理・保健指導	毎月1度の安全点検・避難訓練・交通指導の実施と保護者への啓蒙を図っている。	3
研修（資質向上）	真庭市保育協議会の公開保育を行い、全職員でチーム木山として異年齢保育の温かな関わりの中で育ち合う子どもの育成に向け取り組み他園の職員とも学び合える良い時間を共有できた。 研修会に参加した職員に研修復命をしてもらい、職員で共通理解を図りながら、研修の時間をもった。職員会議の際には、役立つ文献のコピーを全員に配り話をしたり保育者の気づきもてる工夫をした。保育者の持ち味や良さを認めることで、保育者も自分らしく伸び伸びと保育をし、それぞれの資質向上や自信に繋がったと感じている。	3
情報提供・保護者・地域との連携	園便りやクラス便り、行事便り以外にも園長だよりを学期毎発信した。 今、育てたい大切な事や子育て中の母親を応援し、支えることができるよう温かいメッセージ性のある文章を心がけ、子どもにとって「心の基地	3

	はお母さん」である事、基本的な生活習慣の確立、睡眠のリズム、メディアとの関わりなど具体的に分かりやすく考えるきっかけになるよう発信した。次年度は、コドモンを利用し積極的に配信したいと考える。	
小学校との接続・連携	昨年度の反省を活かし、小学校との滑らかな接続、連携を行い、交流会が互いの育ちに繋がるようにしたいと考えてはいるが、まだまだ温度差を感じている。気になる子どもの情報については、密に連携し関係機関にアドバイスを頂きながら、共に考えていった。一緒に来年度の接続、交流計画を立案した。お互いに自然な連携がとれ、小学校との壁をなくし、温かい交流ができるよう引き続き話し合いを大事にし、連携をしたいと思う。	3
子育て支援	個々の育ちや保護者の困り感には、その都度丁寧に対応し、思いをしっかりと傾聴し連携を密にしていた。園と保護者と一緒に育てていこうと母親支援に尽力した。	3
食育の推進（給食）	園の菜園で野菜を栽培し、自分たちで育てた野菜を楽しく食べる事を通して命をいただくことの大切さや給食調理員と連携しながら食育に繋げていった。 5歳児は、積極的に子どもの「やってみよう！」気持ちを中心にしながら、色々な食材を使つてのクッキングを楽しむことができた。給食の職員とも密に連携できていた。今年度は、栄養士とも連携し食育指導も積極的に行うことができた。	4
食事の提供（調理）	子どもの実態に合わせながら安全で安心な美味しい給食の提供を心がけている。食べる事が大好きな子どもになってきている。	3

4. その他必要な評価

評価指標	考察	園総合評価
------	----	-------

5. 本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

○指導計画においては、それぞれの年齢の実態や目の前の子ども達の興味、関心に応じた臨機応変で柔軟な計画を立案し、各年齢時の発達段階やその季節、時期に経験させておきたい遊びなど、常に思いをもって保育にあたっていた。又、「育てたい10の姿」にあがっている経験や育ちは保証していきたいと努力していた。日々の振り返りを大切に考え、子ども達の育ちの繋がるよう遊びや保育環境を大事にし、工夫改善できるようにしたい。

○支援を必要とする子どもや個々に丁寧に関わることが必要な子どもが多い為、行事が子ども達の負担とならない様に、子ども達にとって学びに繋がるような行事となるように、園の行事のあり方を見直していきたい。行事を精査し、育ちに繋がるものに変えたいと思う。

○職員間では、報・連・相を心がけ、皆で同じ思いで一人一人の子どもを大切に見ていこうと連携を図った。保護者連携についてもみんなの問題として真摯に受け止め、全員でカバーし合い、より良い連携となるようにし、楽しい職場作りに尽力したが課題は残っている。

- 職員会議時に様々な文献のコピーを用い、出張復命など短時間ではあるが園内研修の時間を工夫することを通して、人的環境の大切さや友達との関わりの中で育ち合う子どもの姿を職員間で共通理解したり喜び合うことのできる保育者集団として子どもも保育者も育ち合うことができてきたと思う。保育者も子どもも毎日笑顔で楽しいこども園であったと思う。保護者からの評価感想にもあったので、伝わっていたのだとありがたく思った。
- 人権問題啓発セルフチェックシートを活用し、自分の言葉かけや言動を見つめ直す機会をもった。保育者自身が「はっ」とすることで、保育者の言葉かけや子どもとの関わり、トラブルの際の声かけ、豊かな言語環境など、丁寧にできていたように思う。課題の残る場面もある。
- 小学校との滑らかな接続ができるよう、積極的に連携がとれるよう子どもの情報共有を行っていった。今後は、交流会だけでなく、普段から自然な関わりができるように連携していきたい。
- 今年度は、積極的に地域の方の力をお借りし、子ども達と触れあって頂きながら温かい交流活動がたくさんできて良かった。地域の中のこども園として地域の人材や環境を生かし、協働して子ども達を育てていきたいと思う。

6. 評価結果を受けての具体的改善方策等

- 保護者アンケートでは、ほとんどの保護者が、保育園の保育・教育を理解し、職員に対しても日々の保育に対しても総合的に評価をして満足していると回答してくださった。
結果を真摯に受け止め、今後も努力を惜しまず子ども達を大切に頑張っていきたいと思う。
- 園便りやクラスだよりでも子どもの様子を伝える努力をしてきたが、子ども達の興味関心に応じた、無理のない行事の見直しを行っていきたいと考える。
今後も、行事のための子ども達の活動ではなく、「子ども達のやりたい!」という思いから出た遊びを参観日や発表会、行事に繋げていき、「自分たちの遊びや園生活は自分たちで作り上げる!」と言う思いを育て、子どもの主体性を育てることを大事にしていきたい。子ども達は変わってきており、我が子が見違えるように生き生きとして活動する姿を見て、子どもの成長から遊びの大切さを理解して下さる保護者の方もいた事はありがたく思った。
- 次年度も、引き続き子ども一人一人の成長を支えながら、こども園で育てたい力（遊びは学びである）「何が、大切なのか! どんな力を幼児期に身につけておく事が大事なのか!」を育ちが分かるように具体的に発信していく必要がまだまだあると思った。
- 指導計画を子どもの育ちに生かされるよう改善を図り、目の前の子ども達の興味、関心に応じて臨機応変に対応できるように努力してきた。各年齢時の発達段階やその季節、時期に経験させておきたい遊びなど、常に思いをもって「育てたい10の姿」にあがっている経験や育ちは保証していきたいと思いはあるが、なかなか難しい。どの職員もよく話をし、和気藹々と仲良く保育ができていた。個々に努力していたと思う。
- 子ども達に諦めずに取り組む気持ちや失敗しても挑戦する心、コツコツと継続して頑張ること、話を聴く力など本物の力をつけていきたい。

○保護者支援がとても必要であると痛感しているため、園長だよりでも度々啓発していった。
我が子への関わり方や自己肯定感を高めることの大切さ、「あなたがとても大切な存在である」と言葉にして伝える事。大好きを伝えしっかりと抱きしめる。スキンシップの大切さなど、しっかりと伝えながらも、「今しかない、このかけがえのない時間を大切に！」子育てを一生懸命頑張っている母親を支えられるようにしていきたいと思う。

(保護者アンケートの結果や園内職員で改善策を話し合ったことなど織り込んで記入する)

園評価基準

評 価	基 準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である